

能登地域以外との自主番組の相互流通の評価について

能登地域以外との自主番組の相互流通の1施策として、長野県・新潟県のケーブルテレビ局が共同制作している自主番組「信越トライウォーク」と能登7市町で共同制作した広域情報番組「能登半島ヘッドライン」の相互流通を実施した。

1. 相互流通の概要

(1) 「信越トライウォーク」

- ・長野県・新潟県のケーブルテレビ事業者が制作・放映している自主番組「信越トライウォーク」を、能登地域内の各ケーブルテレビで放映
- ・放映時期は、9月中旬～10月中旬



(2) 「能登半島ヘッドライン」

- ・能登7市町で共同制作した「能登半島ヘッドライン（お祭り編）」を、長野県・新潟県の各ケーブルテレビで放映
- ・放映時期は、11月中旬～11月下旬



(3) 有用性・問題点等について検証

- ・視聴者アンケートの実施
- ・ケーブルテレビ局担当者の意見収集

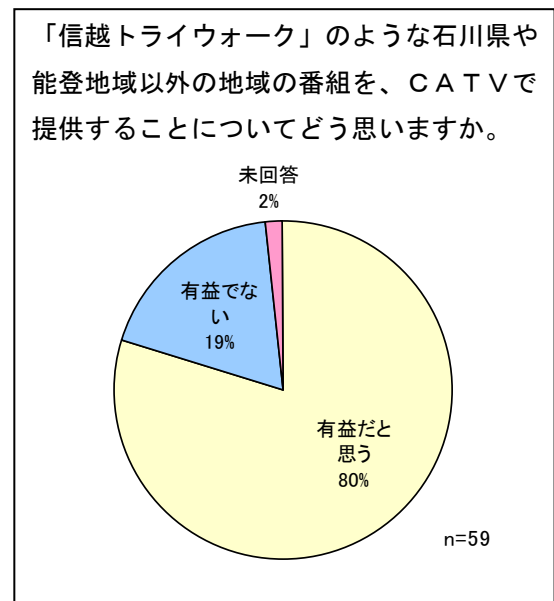
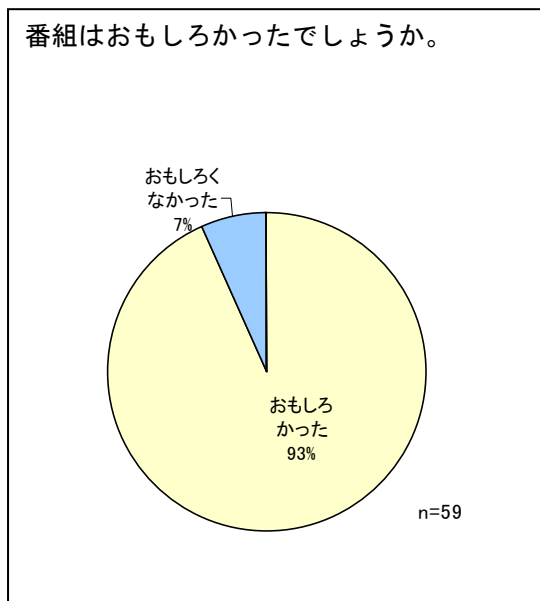
2. 調査結果

(1) 視聴者アンケート

信越トライウォークに対する視聴者の満足度及びニーズを調査するため、能登地域各局の視聴者に対するアンケート調査を実施した。

信越トライウォークの放映内容については、約9割の視聴者が「おもしろかった」と回答しており、満足度としては非常に高い結果となった。また、信越トライウォークの有益性については、約8割の視聴者が「有益だと思う」と回答した。

【調査結果（抜粋）】



<その他「信越トライウォーク」について、ご感想・ご意見があれば、お聞かせください。>

- ・面白かった。
- ・表面的な情報ではないその地方での地元ならではの情報発信はケーブルテレビしかできないと思われるので、地元以外のさまざまな情報を流して欲しい。
- ・大きなイベントより小さいけど行ってみたいようなイベント情報が見られたのでおもしろかった。
- ・番組の作りが良く楽しかったが、他県の情報を知ってもあまり有益ではなかった。
- ・富山(氷見や高岡など)の情報なら見ても有益かも。信越の情報はピンとこない。
- ・相互に地域情報をやりとりできれば誘客に役立つと思う。
- ・番組の作り方が地理的に理解できる視聴者向けのように思う。
- ・位置図や名称のふりがながあっても良いのではないかな。
- ・8局の位置関係を地図上に表示するなど、最初に視聴者に理解してもらった方が良いのではないかな。
- ・県外で放送する場合は場所がわかるような地図などの映像があるとわかりやすい。(詳細なものだけでなく県のどの位置にあるのか)
- ・石川県で視聴しても場所がわからない。

(2) ケーブルテレビ局担当者の意見・感想

今回の相互流通を体験した能登7市町及び長野県・新潟県の各ケーブルテレビ局担当者の意見・感想を収集した。

【調査結果（抜粋）】

<職場の反応など>

能登7市町	<ul style="list-style-type: none">・「面白い！」と好評だった。・他の地域の情報は、なかなか知る機会がないのでよかった。・気軽に見ることができ、いろんな情報があることで楽しむことができた。・県外なので、あまり興味がなかった。
長野県・新潟県	<ul style="list-style-type: none">・お祭りが華やかだ。他地域のお祭りは独特で面白い。・地域の人たちの気迫を感じた。・「へえ～こんなやり方の祭りがあるんだ」とつぶやきながら見ていた。

<放映内容について>

能登7市町	<ul style="list-style-type: none">・情報番組として、地方の民放局の番組と比べても遜色ないと思う。・バイタリティのあるレポーターが番組を盛り上げている。・出演者や制作者が楽しそうに番組を作っていると感じた。カメラワークも参考になった。・番組構成、編集、収録方法が参考になった。・オープニングの編集が良く、どんな内容になっているかの惹きつけられるものがあった。・今後も地域情報のほかに、ニュースなどの情報も見たい。観光情報なども知りたい。・ナレーションの速度が局によってかなり差があると感じた。・1局エリアのイベント等の案内番組としては内容や番組構成はすばらしいものを感じ取ることができる。しかしながら、1番組として通して見た場合、視聴者は長く感じないだろうか。集中して最後まで見ることができるだろうか。・能登地域の視聴者はその話題がどのあたりのことなのか理解できないと思う。そのあたりを工夫して番組制作したほうがよいと感じた。・見ていて興味を引く内容ではあったが、近場のイベント情報ではないのであまり身近な情報という感じはしなかった。トライウオークに限らず、ドキュメンタリーやバラエティーなど1話完結していれば放映に有益(コンテンツの充実)性を感じるが、他県の小さなイベント告知情報番組はあまり視聴者の興味を引かないと感じた。
長野県・新潟県	<ul style="list-style-type: none">・能登半島の地域ごとにお祭りがまとめて見られて、それぞれの特徴がよく分かり楽しめました。・何も考えずに見たが単純に楽しめた。違和感はなかった。・若手からは、「大変勉強になりました」との声が。・他県の視聴者向けに、祭りがおこなわれている市町村の位置説明があれば分かり易いのではないだろうか。・海のある映像がもっとみてみたいです。・最初にガイド役の女性アナウンサーが出演していたが、他地域で放映する場合は少し手法を考えたほうが良いかもしれません。・20分ぐらいの番組でしたが、27分～30分尺での構成ができれば受け手としては助かります。(大変なことは十分承知しておりますが・・・)・オープニング(テロップのみ)が少々長い気がします。・番組の作りがシンプルでとても見やすいがゆえに何回も放送すると飽きやすいかも。

<相互流通について>

能登 7 市町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴者にとっては広域のイベント等の情報を得られ、自治体にとっても地元以外の地域に宣伝ができるため、双方にメリットがあって良い。 ・ 他地域の番組を放送することで、番組の内容に幅ができる。 ・ 他地域の情報も定期的を知る事ができる番組は必要だと思う。放映してよかったと思う。 ・ 広報か何かで番組放送の告知をしたほうが、もっと視聴する人が増えるはず。 ・ 県外の他の局がどのように番組を作っているか勉強になった。 ・ 視聴者に身近なイベントや行事に関する情報を提供することはいろんな面でメリットがある。能登地域でも同じことができればいいと思う。 ・ 本来なら県外情報を放送するよりも、「能登半島ヘッドライン」くらいの範囲の情報が適していると思うが、信越トライウォークのような番組形態があることを町民に知ってもらうだけでも有益である。 ・ この番組を見て、長野県や新潟県に足を運ぶ町民がいてほしいと思う。 ・ 他地域のイベント等の情報は近接地域までが妥当ではないかと思う。 ・ あくまで交流(勤務、通学等)がある地域の情報でないと活かないのでは。 ・ 他地域の情報を放送することは有益だとは思いますが、視聴者に役に立つ情報かどうかは疑問である。(内容にもよるが・・・)近隣の自治体や隣県の情報であれば、興味を持って見てもらえるのではないか。
長野県・新潟県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本局は行政の広報が主目的の放送局ではありますが、自局での制作と村内の情報だけでは内容が乏しいので、近隣局との共同制作番組「信越トライウォーク」や、同県内隣接局同士でのニュース番組の交換などは内容充実におおいに活用しています。このような交流が富山県や石川県などにも広がることは、制作側はもちろん、お互いの地域の視聴者にも有意義なことと思っています。 ・ このような番組交換が、お互いの地域の活性化に繋がることを願っています。 ・ 観光で能登地域に遊びに行くことがあるので、もっと細かいレジャー情報イベント情報が知りたい。 ・ 歴史や文化は取り上げやすいのですが、年間を通じて数あるものではないので別の角度のものもぜひ見せてください。 ・ これからの番組作りに期待大です、頑張ってください！次回送られてくることを楽しみにしています。

<その他相互流通における技術的問題点・課題等>

<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイルのダウンロード^{注)}に 2 時間近く時間を要した。 ・ ダウンロードしたファイルに対応する編集ソフトを準備する必要がある。 ・ DVDを各局に配布したが、フォーマット形式やシステムの違いにより取り込みができないことがあった。 ・ ファイル変換を行うため、画像の劣化は否めない。

注) 信越トライウォークとの相互流通では、信越側からの番組提供を i ネット飯山のサーバ経由で行った。

3. 相互流通の評価

長野県・新潟県の情報番組『信越トライウォーク』に対する能登地域視聴者の満足度は、域内情報番組『能登半島ヘッドライン』と同様に高く、域外の情報に対するニーズも十分にあることがわかった。また、番組の有益性については、「有益だと思う」と回答した視聴者が約8割で、能登半島ヘッドラインに比べると約1割減少しているが、長野県・新潟県という生活圏外の情報という点を考慮すると、十分有益な番組であったと評価できる。

相互流通を実施したケーブルテレビ局担当者の意見をまとめると、番組の有益性については、遠方のローカル情報に対するニーズの低さを懸念する意見も聞かれたが、互いの番組内容についての評価は高く、番組コンテンツとしての魅力とともに、こうした番組交換を行うことによる自らの制作力・技術力の向上にも期待したいとの評価であった。

また、相互流通を実施したことにより、互いの番組の改善点や番組交換に関する技術的な課題が明らかになったことも収穫といえる。

長野県・新潟県だけでなく、今後、北陸地域全体を対象とした相互交流を本格的に進めていくために検討すべき点としては、地理的に必ずしも詳しくない遠方の視聴者でも番組に入り込みやすくなる工夫（マップや文字解説など）を加えることなどが挙げられる。お互いの距離感を縮めて、さらに多くの視聴者に興味を持ってもらうことにより、観光交流の促進等にも貢献できるものと考えられる。